# 令和７年度全国学力・学習状況調査における

# 北九州市立　　池田　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和７年４月１７日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１８日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## １．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

| 教科に関する調査（国語、算数、理科） |
| --- |
| ①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等<br>②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等 |

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問調査

| 児童質問調査 |
| --- |
| ○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

## ３．教科に関する調査結果の概要

### ⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

| 本年度の結果 | 国語 | | 算数 | | 理科 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 8.9 | 64 | 8.6 | 54 | 9.1 | 53 |
| 全国 | 9.4 | 67 | 9.3 | 58 | 9.7 | 57 |

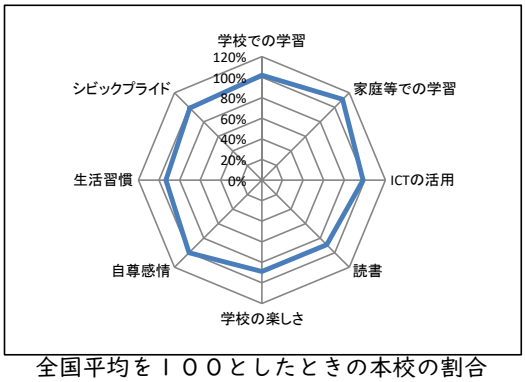
### ⑵　本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|---|---|---|---|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | ・「書くこと」においては全国平均正答率を上回っているが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」においては下回っている。<br>・無回答率は低い。短答式の問いに対しては全国平均正答率を上回っているが、情報を精査する選択式や、目的に応じて自分の考えをまとめる記述式の問いには課題がある。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
| | よくできた問題 | 文章の構成を考える問題・漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題 | |
| | 努力が必要な問題 | 目的に応じて必要な情報を見つける問題・目的に応じて自分の考えを理由とともにまとめる問題 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | ・すべての領域において全国平均正答率を下回っている。とりわけ、「数と計算」「測定」領域は、全国平均正答率との差が大きい。<br>・「数と計算」領域において、示された情報から必要な情報を選び、数量関係を式で表したり、式や言葉、数を用いて記述する問いの正答率が特に低い。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
| | よくできた問題 | 異分母分数の加法計算・伴って変わる二つの数量の関係に着目し数量を見出す問題 | |
| | 努力が必要な問題 | 数量関係を式に表し計算できるかどうかをみる問題・知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉で記述する問題 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | ・「生命」を柱とする領域においては全国平均正答率を上回っているが、「エネルギー」「粒子」「地球」を柱とする領域においては下回っている。<br>・無回答率が低く、記述式の問題においては全国平均正答率を上回っている。全体的に知識・技能に課題があり、選択式の問題の正答率が低い。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
| | よくできた問題 | 差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し表現する問題・結果をもとに結論を導いた理由を表現する問題 | |
| | 努力が必要な問題 | 水の結露について概念的に理解しているかみる問題・顕微鏡の操作の仕方を理解しているかみる問題 | |

## ４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要




全国平均を１００としたときの本校の割合

**質問調査の結果分析**

・「学校での学習」「家庭等での学習」では、肯定的に回答している児童が多い。特に、「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」の問いに対して、約９５％の児童が肯定的に回答している。
・「読書」「学校の楽しさ」においては、肯定的に回答した児童の割合が、対全国比で９０％を下回った。より一層の読書活動の工夫や児童が行きたいと思える居場所づくり、友達とともにつくりあげる特別活動の推進など、学校全体で手立てを講じていく必要がある。
・「５年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の問いに対しては、約９５％の児童が肯定的な回答をしたのに対して「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、家庭においても、ドリルアプリの活用、自主学習での情報収集等でも活用できるように啓発していく。

## ５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・　考えをつくり共有する授業づくりの一層の推進を図る。その際、児童の思考が活性化することができるように個別最適な学びと協働的な学びの一層の充実を図りながら、ICTを活用をする。
・　ドリルアプリ、学力アップタイムなどを活用し、子どもたちの考える力となる基礎基本となる学力の向上を図

②　家庭生活習慣等に関する取組

・　家庭でのICTの活用に課題がある。ドリルアプリの活用等、家庭学習でのICT活用の推進を図るようにする。
・　朝食や就寝時間等、生活習慣に課題が見られる。学級活動の授業や委員会活動、各種通信をとおして、家庭への啓発を図っていく。